

戸田康之さん『手話ネームは誰がつけるの?』(11月22日配信)

こんにちは!戸田です。よろしく。  
今日は、手話ネームの話をしたと思います。

私は今、ろう学校の幼稚部で仕事をしています。

ろう学校では、先生1人1人に手話ネームがあります。子どもたちは先生を呼ぶ時に、いちいち文字の通りに手話を表すのではなく、手話ネームがあるんです。私の手話ネームはこうですし、他の先生の手話ネームもこんなのか…漢字から引用したものが多くですね。ナガイ先生の場合には、「ながい」という漢字を使った手話ネームですし、かおり先生という女性の先生は、指文字の「か」を顔の前でぐるっと回す手話ネームです。このように、先生が自分で考えて、漢字や指文字から引用した手話ネームがあるんです。手話ネームがある方が、子どもたちも呼びやすいんです。先生1人1人の手話ネームを覚えて使っています。

途中で先生が変わり、新しい先生が異動してきました。年配の男性で聴者の先生でした。ろう学校の勤務経験はなく、異動してきてから手話を一生懸命覚えていました。その先生と、まず手話ネームをどうするか、という話になりました。子どもたちが先生を呼ぶ時に使うのにどうしようかと。その先生は、名前に「平」という文字が入っているから、「平」の漢字の手話を手話ネームにしたいと言ったので、そのように決まりました。子どもたちを集めて先生を紹介する時に「こちらは、／平／先生です」と手話ネームで紹介すると、子どもたちもすぐに覚えました。

それから一緒に学校生活を送る中で、子どもたちはその／平／という手話ネームを使わなくなってしまうようになりました。どうしたかという、その／平／先生の髪形に特徴があって、そこから取った手話ネームになっていったんです。／平／先生の髪形は、中央に髪を集めて先をとがらせた髪型で、子どもたちはその髪を見て／平／じゃなくてこうだ!と髪形から取った手話ネームを使うようになり、それが一気に子どもたちに浸透していきました。そうなるともう／平／なんて使いません。先生を呼ぶ時もこの髪型の手話ネームです。／平／先生も「先生の手話ネームこれなの?いやいや、／平／だよ」と言ってみても、子どもたちは髪型の手話ネームをやめようとしません。

なので私は、／平／先生に、手話ネームは自分で決めることもあるけれど、本来の手話ネームはまわりの人が決めるもので、人が決めた手話ネームを本人がそれでいいと認めることで初めて決まるもの。それがろう文化なので、もう髪型の手話ネームが定着しますよと話すと、先生もそういうものかと受け入れていました。自分が決めるんじゃないくて子どもたちから手話ネームが決まるなんて幸せなことなんだと言うと、先生も納得したようでした。

手話ネームというのは、その人の見た目の特徴から決まるものなんですよ。